

INFORMATION



《NEWS》

■職場体験・体験学習を実施

佐倉市内の小・中学校や公民館主催事業に協力して、児童・生徒たちの体験学習・職場体験をおこないました。平成29年11月に、4つの中学校(根郷・臼井西・佐倉東・佐倉)の生徒たちと根郷小学校の児童たちが、当センターの仕事を体験しました。発掘現場で古代の住居跡を掘ったり、室内で土器の拓本を採ったりと、さまざまな仕事から埋蔵文化財にふれてもらい、地域の歴史に関心を深めてもらったようです。



体験学習



職場体験

■遺跡見学会を実施

平成29年8月26日の印西市道作1号墳の見学会には、暑い夏空の下、86人の見学者が古墳の被葬者に思いを馳せていました。また、同年11月3日の柏市花戸原遺跡の見学会には180人の見学者が訪れ、古代の集落に思いを馳せていました。



遺跡見学会
(道作1号墳)



遺跡見学会
(花戸原遺跡)

《おしらせ》

■平成29年度企画展「最新出土考古資料展」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成30年6月23日(金)まで企画展を開催しております。今回の企画展では、匝瑳市多古田低地遺跡(縄文時代)・印西市山崎遺跡(縄文・古墳時代)の展示をしております。印旛郡内外における、当センター最新の発掘調査の成果をご覧ください。

*考古資料展示室開室日時 平日10時～16時30分。
(休館日:土・日・祝祭日・年末年始)

《平成29年度 調査を行った遺跡》

- 〈成田市〉川栗遺跡群Ⅱ(縄文時代、奈良・平安時代) 水神作遺跡第4次(縄文時代、古墳時代、中世)
- 〈佐倉市〉遠部台遺跡第9次(古墳時代他) 江原台遺跡(縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世)
- 〈四街道市〉金クソ遺跡(縄文時代、奈良・平安時代)
- 〈印西市〉榎台第1遺跡第4地点(縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代) 道作1号墳(古墳時代) 株木第1号墳・株木第2号墳(古墳時代) 武西千駄苅遺跡第2次(古墳時代・平安時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡第12次(古墳時代、奈良・平安時代、中世) 中馬場遺跡第9次(古墳時代、奈良・平安時代、中世)
- 〈東庄町〉青馬鷺遺跡(奈良・平安時代)
- 〈山武市〉小泉遺跡(平安時代、中・近世)

《平成29年度 整理作業を行った遺跡》

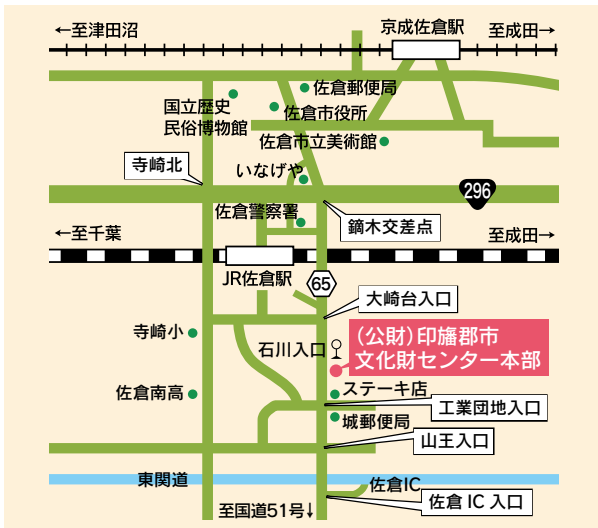
- 〈佐倉市〉間野台貝塚第12次(縄文時代)他 佐倉城跡第1～3次(近世) 神門房下遺跡E地点(縄文時代) 遠部台遺跡第9次(古墳時代他)
- 〈四街道市〉飯塚台遺跡第6次(縄文時代)他 笹目沢1遺跡第3・4次(縄文時代他)他
- 〈印西市〉武西千駄苅遺跡(第2次)(古墳時代・平安時代) 新井堀遺跡(奈良・平安時代)他
- 〈栄町〉宮前遺跡(奈良・平安時代)
- 〈柏市〉花戸原遺跡(縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代)
- 〈匝瑳市〉多古田低地遺跡(縄文時代)
- 〈茂原市〉国府関遺跡(古墳時代)
- 〈山武市〉小泉遺跡(平安時代、中・近世)

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトをご利用ください。当センターの最新情報をお伝えしています。下記URLもしくはQRコードより閲覧してください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>
スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>



平成30年3月30日 千葉県佐倉市春路1-1-4 ☎043(484)0126(代) FAX043(485)9871 〒285-0814 千葉県佐倉市文化財センター 印旛郡市文化財センター 公益財団法人 印旛郡市文化財センター 発行・編集 フィールドブックvol.40



印西市 道作1号墳

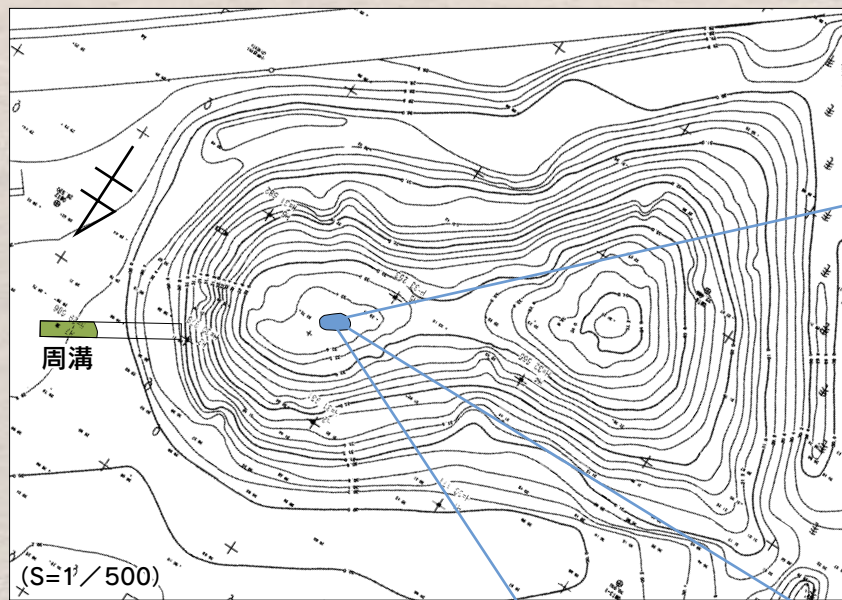


写真1: 石棺(後円部墳頂)南西から



道作1号墳全景 北から



写真2: 石棺 北西から



写真3: 側石 北東から

印西市指定史跡のひとつである道作1号墳は、北に利根川、南東に印旛沼が面する標高約30mの台地上に所在します。全長46m、高さ4mの大きさで、西印旛沼域では最大規模を誇る前方後円墳です。古墳群自体は前方後円墳7基、円墳13基で構成されます。1号墳は下総型円筒埴輪をもつため、6世紀後半に築造されたと考えられています。同じ時期には、国史跡栄町龍角寺古墳群や成田市公津原古墳群などが所在し、印旛沼周辺の古墳群とその勢力関係を考えるうえで重要な古墳群となっています。現在、道作古墳群の場所は歴史広場として整備され、いつでも自由に見学ができるようになっています。

この1号墳の詳しい情報を得るために、平成28年度に東京工業大学の協力を得て、墳丘の地中レーダー探査を行ないました。その結果、前方部と後円部の墳頂にそれぞれ何かが埋められている反応が確認され、埋葬施設が設けられている可能性が出てきました。

今回は、比較的強い反応のあった後円部を対象に、平成29年8月1日から9月6日まで保存を目的とした必要最小限の学術調査を行ないました。その結果、地表下約50cmで石材を組み合わせた箱式石棺の天井石が検出しました。石材は、絹雲母片岩で天井部分は3枚の石で造られていました(写真1)。石棺上部の土層堆積を観察してみると、南西側の2枚の石については、堆積状況に相違点がみられます。このことから後から天井石を動かしたと考えられ、追葬を行った可能性があります(写真2)。天井石が発見された反対側のトレンチからは、側石も検出しました。石を埋め込むために使用した白色粘土混じりの裏込めが確認されました(写真3)。

今回の調査はここまでで、天井石を除去した内部の確認作業は行っていません。それは、発掘調査は対象になった場所を破壊して行うため、未来に残していくために支障となる作業はできるだけ避ける必要があるためです。今後は専門の方々により、非破壊で内部を観察する方法が検討されることでしょう。調査は引き続き行っていく予定なので、今後の成果に期待してください。

柏市 花戸原遺跡 (第12次)

3号住居跡

空から見た花戸原遺跡第12次調査区



3号住居跡山砂検出状況（東から）



3号住居跡完掘（東から）

花戸原遺跡は柏市の東側、JR常磐線北柏駅北口近く、我孫子市との境に位置しています。手賀沼の最奥部に近い、標高20m程の台地上に広がっています。

今回、調査を行った第12次調査は主に駐輪場だった部分3,305㎡の調査を行いました。前回(vol.39)紹介した第10・11次調査区の隣接地になります。調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡約30軒、平安時代の掘立柱建物跡10棟以上、そのほかに中世の掘立柱建物跡、溝、台地整形区画等が見つっています。

竪穴住居跡は調査区の中央部分に集中しており、平安時代の掘立柱建物跡もこの場所に集中しています。柱穴の様子から複数の建物が規則的に並んでいる状況が確認でき、公的な建物が建っていたことを窺わせることができますが、今回の調査では建物の性格を特定できるまでには至っていません。

検出状況や遺物等から9世紀の前半頃が中心と考えられます。

また、調査区の北隅で見つかった3号住居跡は1辺約7m、遺構確認面からの深さが1mを超える大型の住居跡で、8世紀後半頃の土器や多くの鉄製品が出土しています。さらに住居の北側を中心に大量の山砂が見つっています。堆積状況から、住居跡が使われなくなって間もない頃に、入り込んだと見られます。何に使っていたものなのでしょう。近くに大量の砂を使っていた施設の存在が想定されます。

今回調査した部分は、遺構の検出状況から古墳時代から奈良・平安時代にかけて集落の中心の一部であったと考えられます。本遺跡の辺りはかつて下総国相馬郡に属し、近くには下総国の国府から、常陸国の国府までの道が通っていました。また手賀沼を使った水運にも近いという立地が、本遺跡の性格を検討していく上での重要な要素となるでしょう。

